



日蓮宗 法音寺

法音

今月のご法話

凡事徹底

令和7年
5月号
No.667



悦可衆心

よい教えを伝えよう
おし つた

今日一日、

人に感謝しましょう

今日一日、

人に親切にしましょう

今日一日、

人を善に導きましょう

月刊・法音 令和7年5月号 No.667 目次

【信仰の指針】今日一日きょうにち 日々の功德の積み重ねが人生です 1
【朝のこない夜はない】

凡事徹底

山首 鈴木正修 2

- ◆ 講日のご案内 21
- ◆ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 22
- ◆ 御開山会のお知らせ 24
- ◆ 仏教漫画『日蓮さま』・『三度の国諫』 25
- ◆ 第三の国諫 33
- ◆ お寺の本棚 34
- ◆ 常寂光土への誘い(34) 36
- ◆ 五十萬巻 御報恩納経 妙法蓮華経 久遠偈 39
- ◆ のりのね体験 40
- ◆ 支院だより・訃報 42
- ◆ 福祉のひろば 67
- 幸せのお手伝い 68
- 昭徳会・令和7年度 辞令交付式 70
- 日本福祉大学・大阪支院でふくしセミナーを開催しました 72
- ◆ 法音寺は「信仰と福祉のお寺」です 74
- ◆ 賛助員ご芳名 75
- ◆ 幸せの種まき／編集後記 76
- ◆ 連載まんが・ひまわり・148 いいところなし? 77
- ◆ 法音寺の社会福祉・教育事業 77

掲載写真 表紙・信仰の指針

3頁・21頁・梅田雅臣氏撮影

2頁・加納将人氏撮影

表紙写真・チューリップ

信仰の指針

き
よ
う

に
ち

今日一日

日々の功德の

積み重ねが人生です

日教五



ハナミズキ



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

ほんじてってい 凡事徹底

「掃除の神さま」と呼ばれたイエローハットの創業者・
鍵山秀三郎さんが、今年の1月2日に91歳で亡くなりま
した。鍵山さんは高校卒業後、自動車部品販売店に就職
し、その後、ローヤル（現・イエローハット）を創業。
自転車での行商から始めた同社を日本有数の自動車用品
チェーン店に育て上げました。

鍵山さんといえば、「トイレ掃除」です。当時の自動
車用品の店はどこもきれいではありませんでした。その
ため、社員が働く環境をきれいにしたい。社風を良
くしたい。という一心で、たった一人で会社のトイレ掃
除を始めたのです。当初は、社員が用を足している横で
社長の鍵山さんが便器の掃除をしていたそうです。



黙々たる実践が十年続いた頃には、一人、二人と自主的に手伝う社員が出てきました。やがて会社全体に広まり、社風が格段に向上したそうです。

鍵山さんは「箸よく盤水を回す」と言われていますが、正にその通りになったのです。盤水とは、たらいの中の水のことです。箸一本で回しても、最初は箸しか回りません。ところが、根気よく回し続けていると、水全部が大きな渦になって回るようになります。

鍵山さんは、さらに、世の人々の心の荒みをなくしたいという思いで「掃除道」を進めました。すると、その姿勢に共鳴する人達がどんどん現れました。その後、各地に「掃除に学ぶ会」ができました。それが今、「日本を美しくする会」となり、鍵山掃除道は国内だけでなく世界中に広がっています。



「日本を美しくする会」の活動で有名なのが歌舞伎町ク
リーン作戦です。東京都新宿区歌舞伎町は日本一犯罪が
多い場所でした。当時の副知事が、どうにかしたいと、
鎌山さんに声をかけたのです。

そして、月に一度早朝に「日本を美しくする会」の人
達を中心になって、多い時は200名以上が参加して、
徹底した掃除を続けた結果、一年後には犯罪件数が50%
以上減少したということです。

また校内をオートバイが走るような学校の校長先生か
らも声がかかりました。そこで「日本を美しくする会」
と先生と生徒と保護者会とで協力して掃除をしました。
するといつの間にか、地域のモデル校になったという話
があります。

私が鎌山さんを最初に知ったのは致知出版社の本です。



それから法話で鍵山さんのことを紹介しましたら、亀岡
布教所の田中節子さんが、「私の主人は『掃除に学ぶ会』
の会員です。よく鍵山先生と一緒にいろいろな学校の掃
除に行っております」と言われました。そして鍵山さん
の講演のテープを戴き、何度も聞いたことを思い出しま
す。

その頃、日蓮宗保育連盟の大会が名古屋であり、連盟
から「しかるべき人に講演を依頼してほしい」と言われ
ました。これはもう絶対鍵山さんだと思いい、早速田
中さんに相談しました。田中さんは、すぐに鍵山さんに
取り継いでくださり、鍵山さんは快く引き受けてくださ
いました。直接鍵山さんの講演を聞いて非常に感動した
のを覚えています。

その後、鍵山さんの講演を聞きに東京まで行ったこと



もあります。最初に私が読んだ鍵山さんの本は『凡事徹底』という講演録です。その本の中にこう書かれています。

「『うちの会社は、掃除をしようとしてもなかなかできないんですよ』と言う会社があります。それは、一度にやろうとするからです。いま不幸にして、非常に会社が汚いと思います。その汚い会社をきれいにするときは、ほんの一部分ずつからやることです。例えば、Pタイルを一日に二十枚ずつ、廊下を五メートルずつ、階段を一階から二階の途中まで、明日は二階まで、というふうに区切って一部分ずつやる。そして、やる時には徹底してやると、汚いところときれいなところとの差がはっきりしますから、後がやりやすくなってきます。清掃・清潔が大事だからといって、全社を二日、三日のうちにきれい



にしようなどとしても、できません。そしてまた、やっ
てもすぐ元に戻ってしまいます。そのことを陶芸家の河
合寛次郎先生は、『一人光る。みな光る。何も彼も光る』
という言葉で言い表しています。職場の中でも、『みん
なでやろう』などと言わなくても、私一人、まずコツコ
ツとやる。そのひたむきな姿に共鳴者が現れてきて、い
つの間にかみんなが光る。そして、さらにそれを徹底し
て継続をしていると、何もかも光るようになる。この順
番です。ところが、いまは、いきなり最後のところから
やろうとする人が多い。私どもの会社にも、朝早くから
経営者の方や幹部の方が九州や北海道や東北から飛行機
に乗って、費用をかけて掃除研修に来られます。なかに、
ものすごく感激した社長が、『これはすばらしい。明日
から全社でやります』と意思表示される方もいますが、



私は『そんなことは絶対駄目です。そんなに感激したのなら、まず、あなたが明日からやってほしい。そして、できれば最初は自分がやっていることも人に知られないくらい早く行って、社員が来たら、誰がやったか知らないけれども、トイレがきれいになったというようなところから、一人光るところから始めてほしい』というお話をしているわけです。そういうふうな入り方をしないと、物事はうまくいかないと思います。このように特別なことをするより、〴〵あたりまえの平凡なことを非凡にする〴〵という考えから、少し前向きな良い思想がわいてくるのです」

要するに「凡事徹底」です。〴〵平凡なことを非凡に徹底してやる〴〵ということです。また次のようにも言われています。



「微差、僅差の積み重ねがついには絶対差となる」
つまり、小さな差の積み重ねが一生の間には大きな差になる」ということです。

今回もう一人、凡事徹底の人を紹介します。フランス料理の世界的シェフ・三國清三さんです。この方は鍋洗い、血洗いを続けて、世界有数のシェフになったという人です。三國さんはい最近まで『ホテル・ドウ・ミクニ』というレストランのオーナーシェフでした。今は37年間やってきた店を閉められ、自分一人でやれるカウンター8席の小さな店を新たに始める準備中だそうです。フランス料理の世界トップシェフ5人の内の一人に選ばれた三國さんの始まりは、お母さんの「食いっぱぐれないから飯屋になれ」の一言だそうです。中学を卒業し



てすぐに札幌に出て、米屋に住み込みで働きながら、夜の調理師学校に通いました。その米屋の娘さんが料理の上手な人で、洋食をよく作ってくれたそうです。増毛という漁師町で育った三國さんはそれまで洋食を食べたことがありませんでした。マカロニグラタンやポークソテーを食べ、ハンバーグも食べました。黒いソースのかかったハンバーグを最初、黒いキノコだと思っただけです。お母さんに「黒いキノコには毒があるから気をつけろ」と聞いていたので、手をつけませんでした。「キノコじゃないから食べなさい」と、その娘さんに言われて食べたところ、おいしいことこの上ない」とハンバーグが大好きになり、その時、西洋料理人になろうと決めたそうです。また、その娘さんに、「清三ちゃん、札幌グランドホテルのハンバーグはこの何倍もおいしい



のよ」と言われ、札幌グランドホテルに勤めたい〴〵と思いはじめたそうです。

札幌グランドホテルは当時「北の迎賓館」と呼ばれ、天皇陛下や要人が食事をしたり、宿泊する有名なホテルです。三國さんは「そこで働きたい」と思ったのですが、その娘さんに「清三ちゃん、あんたは中卒だから駄目よ。あそこは高卒じゃないと取ってくれないから」と言われてしまいました。しかし、三國さんは全くあきらめませんでした。

調理師学校の卒業研修が「テーブルマナーを学ぶ」という研修で、札幌グランドホテルでの実地研修でした。テーブルマナーの後に厨房見学があり、みんなは帰ったのですが、三國さんは厨房に隠れました。三十分ぐらい隠れていると偉そうな人が来たので、いきなり駆け寄っ



ていき、「雇やとってください」と直じか談判だんぱんしました。その人ひとはびっくりして、聞ききました。

「なんだお前まえ！どこから来たんだ！」

「増毛ましけちやう町まちです」

「あんな遠とほくから来たのか」

「いくつだ」

「16歳さいです」

「しょうがないな。まあ、アルバイトで雇やとってやるよ」

そうして三國みくにさんはアルバイトとして札幌さっぽろグランドホテルで働くことになったのです。そこでの仕事しごとは、従業員食堂じゆうぎやうどうでの下働したはたらきでした。当然とうぜん、大たいした仕事しごとはありません。三國みくにさんは、周まわりをよく観かん察さつしました。ホテルは非常にじやうはんじやう繁盛はんじやうしていて、常つねに鍋なべや皿さらなどの洗あらい物ものが山やまのようにありました。それを先輩せんぱい達たちが夜よる、五ごく六ろく人で四しく五ご時じ



間かけて洗っていました。その様子を見ていた三國さんは、「僕がやります。暇ですから」と言っ、毎日一人でピカピカにしました。先輩達にすぐ喜ばれたそうです。それを半年くらい続けると、最初に雇ってくれた人に、「三國、明日から正社員だ」と言われました。念願が叶ったのです。もともと才能があったのでしよう。料理がどんどうまくなり、18歳の時にはかなりの腕前になっていたといひます。

すると、ちよつと鼻が伸びてきました。そこで先輩から「三國なあ、少しぐらい仕事ができたらいい気になるな。上には上がいるぞ。東京にはフランス料理の神さまがいるんだ。日本一の帝国ホテルの村上信夫さんだ。ムッシュ村上と呼ばれている人だ」とたしなめられました。三國さんはすぐに、ぜひ帝国ホテルに行きた



い。村上さんに会いたいのとなり、もう止まらなくなり
ました。

札幌グランドホテルの総料理長に頼み込んで紹介状を
書いてもらい、それを東京に行って村上さんに直接手渡
しました。時はオイルショックの頃です。村上さんが言
いました。

「帝国ホテルでも今不況で希望退職者を募っているところ
なんだ。社員にはすぐには採用できないけど、パート
で洗い場の担当だったら採用できる。そこで正社員にな
る順番を待ってくれ」

三國さんは「はい」と答えて、それから三年間、鍋洗
いを続けたそうです。その鍋洗いは徹底していて、毎日
毎日ピッカピッカに磨き上げたそうです。

ちょうど20歳になった時、欠員が出たら正社員になれ



るといふ制度せいどがなくなつてしまいました。次つぎが三國みくにさんといふタイミングきょうでした。がっかりした三國みくにさんは、故郷きょうの増毛ましけに帰かえる前に、最後さいごにホテル中のレストランの鍋なべをすべてきれいにして自分の爪痕つめあとを残のこしておこうと磨みがきを始めると、突然とつぜん村上むらかみさんに呼よばれたのです。「もう増毛ましけに帰かえりなさい」と言いわれるかと思おもつたら、「スイスのジュネーブに行いきなさい。君きみを今度こんど赴任ふにんする大使たいしの料理人りょうりにんに推すい薦せんしました」と言いわれたのです。

周りまわの人達ひとたちは「なぜ鍋洗なべあらいしかしていない三國みくにをそんなところに行いかせるんですか」と反はん対たいしたそうです。それもそのはず、当時とうじの帝国ていこくホテルには優秀ゆうしゆうな料理人りょうりにんが何百人なにひゃくにんもいたのです。

その時ときに村上むらかみさんは、「鍋洗なべあらい一つ見みれば、その人ひとの人格じんかくがわかる。技術ぎじゆつは人格じんかくの上うへに成なり立たつものだから、



あいつだったたら間違いないと私は思ったんだ」と言われ
ました。

後に村上さんは著書の中に書いています。

「当時、三國君はまだ20歳の若者だった。しかも帝国ホテルでは鍋や皿を洗う見習いだったため、料理を作ったことがなかった。しかし彼は、鍋洗い一つとっても要領とセンスがとても良かった。(中略)私が特に認めたのは、塩のふり方だった。厨房では俗に、塩ふり三年」と言うが、下ごしらえの手伝いで彼は素材に合わせて、実際に巧みに塩をふっていた。実際に料理を作らせてみなくとも、それで腕前のほどがわかるのだ」

そして、三國さんはスイスに行くことになりました。その時の大使は小木曾本雄さんという方で、普通の大使ではなく、ジュネーブ軍縮会議日本政府代表部に派遣さ



れた特命全権大使でした。三國さんが大使公邸に着任した途端、大使から「一週間後にアメリカ大使を晩餐会に招くから、私達を含めて12名分のフルコースを頼む」と言われました。三國さんはびっくりしてしまいました。フルコースなんか作ったことがなかったのです。とりあえず「はい」と答えて、どうしたものかと考えていると、そこでひらめいたので。まずアメリカ大使がいつも利用しているレストランを調べました。ミシュラン二つ星の「リオン・ドール」というレストランでした。そこに、「日本大使の料理長が研修に行くから教えてやってくれ」と電話をしました。そして、大使には「赴任したばかりで少し疲れていますから、三日間休ませてください」と言って、「リオン・ドール」に行き、アメリカ大使が喜んで食べているすべての料理を三日間で味も作り方も全



部ぶ覚おぼえてしまったのです。本番ほんばん当日とうじつは12名めい分の料理りょうりを三み國くにさん一人ひとりで作つくりました。

晩餐ばんさん会かいが終おわった後あとに大たい使しから言いわれました。

「三國みくに君くん、とても良よかったよ。それと、アメリカ大たい使しが『なぜお宅たくの料理人りょうりにんは僕ぼくらの好このみをよく知しっているんだ』と言いわれたよ」

三國みくにさんはその理り由ゆうを言いわなかったそうですが、大たい使しに「この調子ちょうしで頑張がんばってくれ」と言いわれ、結けつ局きよく三年ねん八月げつ、ジュネーブの大たい使し公こう邸ていに勤つとめました。

最後さいごの夜よるに大たい使しの奥おくさんから言いわれたそうです。

「今いまだから言いえるけど、村上むらかみ料理長りょうりちやうにあなたを推すい薦せんされた時とき、『いくらなんでも20歳さいの子こを連つれて行いけません』と言いったのよ。でもね、村上むらかみさんから『三國みくになら大だい丈じやう夫ぶ。私わたしを信しんじてください』と言いわれたから、それで仕しか方たなく



連れてきたのよ」

三國さんは言われます。

「天皇の料理番と言われた宮内庁主厨長の秋山徳蔵さん、また村上海理長も若い頃はずっと鍋洗いばかりだったと聞いています。下積みの鍋洗いがやっぱりその料理人の人格を作るんだと思います」

スイスに行く前に村上さんが言ったそうです。

「十年間は辛抱して修行してきなさい。十年後には必ず君達の時代が来ます」

三國さんは、八年間のヨーロッパでの修行を経て、十年後に四ツ谷に『オテル・ドウ・ミクニ』を開業して、世界有数のシェフになりました。その基礎には「凡事徹底」の鍋洗いがあったのだと思います。



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では
毎月の講日の中で

三徳の教えを聞くことができます。

是非講日にご参詣いただき
教えを心にしみ込ませましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

大阪支院	5月11日(日)	関支院	5月13日(火)
上野支院	5月18日(日)	佐屋支院	5月24日(土)

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乗山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)5315436
東京支院	6日・17日・24日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
静岡支院	1日・12日・22日	磐田市城之崎4-7-3	☎(0538)3216625
豊川支院	6日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)8614704
安城支院	11日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)7612504
明川支院	11日・24日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)3211825
佐屋支院	4日・11日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0586)7217208
一宮支院	5日・15日・28日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)2215813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋九之坪東ノ川20	☎(0568)24512939
岐阜支院	4日・14日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)39119733
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)7814854
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)2210776
関支院	3日・13日・24日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)2313771
平賀支院	5日・11日・24日	関市市平賀213-2	☎(0575)6513933
郡上八幡支院	8日・18日	郡上市八幡町小野721-3	☎(059)35213633
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)2110127
上野支院	1日・11日・18日	伊賀市上野向島町3475	

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	1日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	11日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	6日・17日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	10日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	6日・24日	南あわじ市神代国衙9-10	☎(0799)421-0175
岡山支院	5日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	4日・18日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	10日・24日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	4日・25日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	11日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	4日・15日・18日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)44-5445
筑後布教所	11日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	6日・18日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・31日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	12日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

御開山会

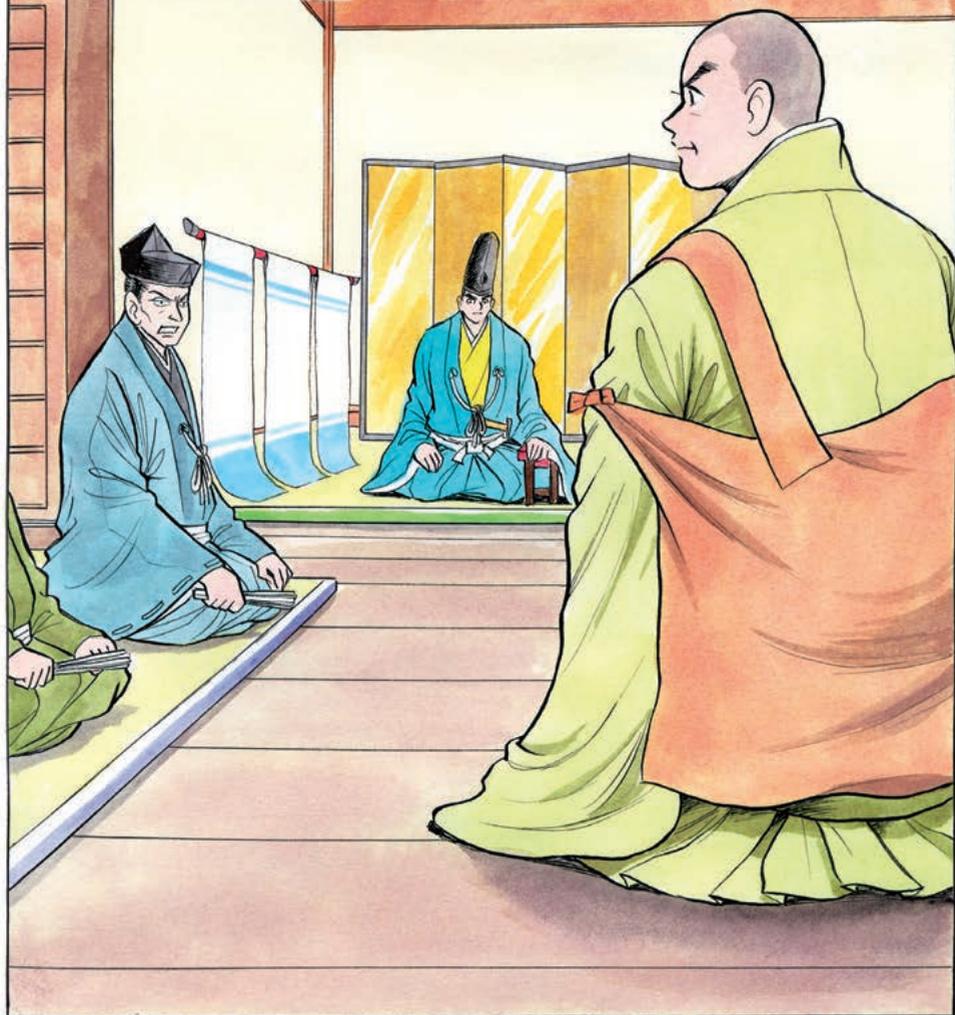
令和7年5月25日

6月1日・15日

大乘山
法音寺

に ち れ ん
日蓮さま

37 み た び こ っ かん
三度の国諫



鎌倉幕府
執権
北条時宗の館



頼綱
どんな用向きじゃ

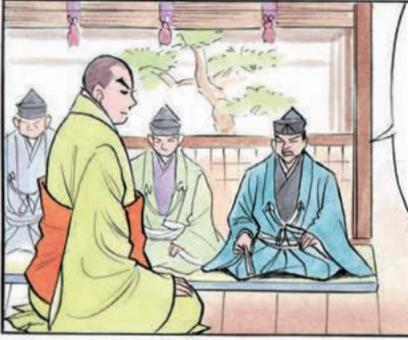
ははっ 例の日蓮が
赦免となり 佐渡より
帰ってまいりました
話を聞かためここに
呼んでおります



日蓮を
これへ

はっ

日蓮殿
ご健勝のご様子で
なごまつておられる



今日ご足労願ったのは
そなたの予言は
ことごとく現実となる

この世の出来事が
すべてお見通しの
そなたにぜひとも
教えていただきたい



大蒙古はまことに
攻めてくるのだらうか







そうならば
日本で起きる災難は
誰が防ぐのですか

邪法がはびこれば
さまざまな難が起きると
経文に記されて
いるのです

お集まりの方々も
とくとお考え
ください



なるほど…
よくわかった



だが、他宗の信仰を
持つ者達に
それがよこしまな
法であるから
やめよとは
とても私の口からは
言えぬ



それで…どうだろう
そなたには御所の隣に
広い敷地と寺を与える

そこで日本国の
平穩のための祈禱を
導師としてまかせたい

どうだ日蓮
幕府が敷地と
寺を寄進するこ
うのだ



しかも祈禱の導師とも
なれば名譽なこと…
さあ、早く受けるがよい
日蓮、おのれも所詮…



何故!?



せつかくですが
お断り申す!!

私の役目
弘めていくことこそ
私の役目
弘めていくことこそ
弘めていくことこそ

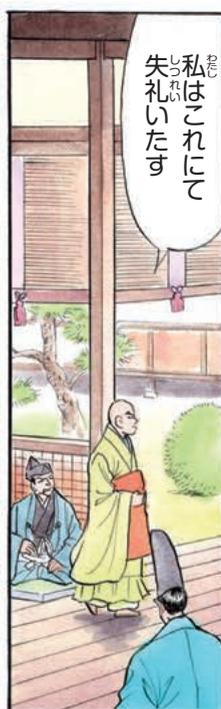
人に仕え 従い
個人の都合のために
祈るわけには
まいるませぬ!!



日蓮とついでに
あれほどの心の動揺がならんとは
まれにみる名僧であらう
しかし言っている
教えは邪法だなどと
民にはとても言えない
どうしたものか...



この日蓮
幕府を諫めるのは
三度となる
執権殿
もう一度よく
お考え直してください



私はこれにて
失礼いたします

表堂橋 庵室



ごめん
ごちらに 日朗殿は
おいででしょうか



これは
宿屋光則様では
ございませぬか
やれぬ



宿屋様のご厚意で
赦免状を佐渡にお届けでき
お師匠さまも
無事鎌倉までお戻りにな
ることができました
ご恩の数々忘れ
いたしません



いやいや私は
あなたを土牢に
閉じ込めた身
いわば仇…



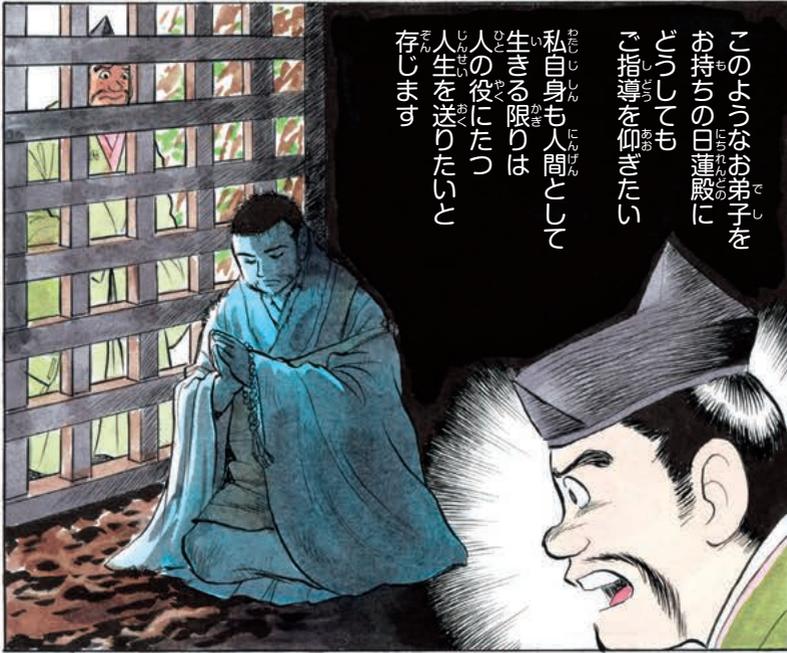
だが今日は
日蓮殿にごついても
お願いしたいことが
あってまいりました



お師匠さまは
幕府から召喚され
執権殿のお屋敷より
戻られてから
部屋に入られたままで



何か
ご用ですか
お師匠さま



このようなお弟子を
お持ちの日蓮殿に
どうしても
ご指導を仰ぎたい
私自身も人間として
生きる限りは
人の役にたつ
人生を送りたいと
存じます



日蓮殿
日朗殿をお預かりして
教えられること
ばかりでした



皆ともに
信者です

それは それは
法華経を信仰されるなら
敵も味方もありません



どうか今までの
いきさつを乗り越えて
私も信者の一人に加えて
いただきたいと思います





つつく

第三の国諫

日蓮聖人一行が鎌倉に戻ったのは文永11年3月26日、そして4月8日に幕府に出頭したと記録されています。そこで三度目の国諫が繰り広げられることとなります。対面したのは平左衛門尉頼綱でした。頼綱といえば、龍ノ口で日蓮聖人の処刑を現地で取り仕切った人物。しかし、龍ノ口以降、日蓮聖人に恐れをなし、また予言もことごとく的中するため、恐れは敬意に変わっていたようです。蒙古襲来の時期を尋ねた頼綱に対して、日蓮聖人は「経文にはいつとは書かれてはいないが、天の怒りがあることから今年中にやってくる」と答え、さらに、「念仏・禅・律・真言に祈らせてはならない」と経文に立脚して説き述べて、人々を傾聴沈黙させたのです。幕府は日蓮聖人の法力を利用すべく、布教活動を認め、さらに愛染堂の別当職として一千町の田を寄進する代わりに防衛のための祈祷を願います。日蓮聖人はそれを拒否し、会見は終わりました。



日蓮聖人が鎌倉に帰った際に滞在した庵室の跡に建立された本覚寺
江ノ島・鎌倉ナビサイトより



お寺の本棚



『大白牛車(三)』



功德は「自動販売機」？

徳を積むにはいろいろな方法があります。先祖供養もそうですし、お寺の行事等にご奉仕いただくのも、家庭や職場で、自分のできる

ことで人に喜んでいただくこともみなそうです。そこで、考え方の基本として忘れてならないことがあります。

世の中忙しいせいとか、私どもは皆、せっかちな日常を送っております。そうした中で功德を自動販売機のように考えるのです。徳を積んだらすぐに結果が現れないと気がすまない人があります。「昨日、先祖供養したのに、少しも良いことがない」というような考え方です。法華経による徳積みは、はっきり言って積んだ徳がいつ結果として現れるかわかりません。すぐ現れる場合もありましょうし、相当時が経ってから現れる場合もあります。また、自分の思惑とは全く違った形で現れる場合もあります。

ある人と結婚できるよう、願ったとします。それが叶えられれば功德がいただけ、結婚できなければ功德はいただけなかった、と普通は考えます。しかし実際は、その時点では誰にもわかりませ



ん。後になって、相手の人は粗暴で悪い人だった、ということがわかれば、結婚できなかつたことが徳がいただけだ”ことになります。

もう一つ、いくら功徳を積んでも良い結果が現れないことがあります。因縁という自動販売機の中に「罪障」が一杯詰まっておりますと、いくら功徳を入れても願いが叶いません。しかし、入れた功徳の分だけ罪障が減ることは確かです。功徳が現れるようになるまで、続けていくことが大切です。一度や二度であきらめてしまわないで、長い人生をコツコツと功徳を積み重ねていきたいものであります。

「勇猛精進」という言葉があります。勇猛と申しましても、がむしゃらに、猛々しくすることではありません。人間の心は弱いものですから、時には信仰を一休みしたくなることがあります。良いことに巡り会えませんが、ついあきらめて、止めたくなる時もあります。そうした弱気に陥りがちな心を奮い立たせることを勇猛と云うのです。取り立てて派手なことをしなくても、目立った行いができなくても、少しずつ、コツコツと功徳を積み重ねていくことが大切です。

「与えて思わず、受けて忘れず」という言葉があります。菩薩行をして徳を積むことは、「私はこれをできることがあります」という思いで行うことです。しかし、残念なことに皆「我」が強いものですから、なかなかそうは思えません。「一言もお礼を言わない、恩知らずだ」と、後で文句を言っている人があります。そのような「我」をなくしていくためにも、六波羅蜜の修養は必要です。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

常寂光土への誘い (34)

無量義經 十功德品第三

善男子、第九に是の經の不可思議の功德力とは、若し善男子・善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、是の經を得ることあつて歡喜踊躍し、未曾有なることを得て、受持し誦誦し書寫し供養し、広く衆人の爲に是の經の義を分別し解説せん者は、即ち宿業の余罪重障、一時に滅尽することを得、便ち清淨なることを得て、大弁を逮得し、次第に諸の波羅蜜を莊嚴し、諸の三昧・首楞嚴三昧を獲、大総持門に入り、勤精進力を得て速かに上地に越ゆることを得、善く分身散体して十方の国土に遍じ、一切二十五有の極苦の衆生を拔濟して悉く解脱せしめん。是の故に是の經に此の如きの力います。善男子、是れを是の經の第九の功德不思議の力と名く。

「善男子よ、第九に是の經の不可思議の功德力とは…」

《第九、拔濟不思議力》

「仏の在世の時でも滅度の後でも、この教えに出会って歡喜踊躍し、未曾有なることを得て、受持・誦誦

・書写・供養して、広く人々のためにこの經の意味を分別し、解説するならば、その功德は広大である」と言われています。

「分別し解説せん」とは、相手に適するように細かく砕いて説くことです。相手がよく飲み込めるように説いてあげるのです。そうすればその功德によって「宿業の余罪重障、一時に滅尽することを得」で、前の世から積み重ねて来た罪がすっかり消えてしまうのです。この罪業をなくしてしまえば「清浄なることを得」るのです。そうして「大弁を逮得」^{たいべんをたいとく} 大きな弁舌力で仏さまのお心に一致するように説く力が得られ、「次第に諸の波羅蜜を莊嚴し」で、六波羅蜜の行いが立派に具わるのであります。

「諸の三昧・首楞嚴三昧を獲」^{しゆりやうごん} 首楞嚴とは、欠点のない完全な行いということですから。これは、最も修行の進んだ菩薩と仏さまだけが得られる三昧とされています。

「大総持門に入り」とは、ともに善い行いを続けさせるように、他の人にも感化を及ぼして悪いことを止めさせることです。

「勤精進力を得て速かに上地に越ゆることを得」^{しんしん} 仏さまと同じ境界に到達するまで一心に修行に励み、凡夫を離れた境界に至るのです。

「分身散体して十方の国土に遍じ」^{ふんじんさんたい} は、わが身が方々に分かれて現れること。自分が人を感化する力があるいろいろな方面に及ぶことです。

「一切二十五有の極苦の衆生を拔済」とあります。「二十五有」とは、諸説ありますが、一説にインド古来の伝統的な世界観と言われ、衆生が三界・六道に生死しつづ流転輪廻するさまを、二十五種に分けて示された説であります。

三界の一、「欲界」は、(1)四悪趣あくしゆ 地獄ぢごく・餓鬼がき・畜生ちくしう・修羅界しゆらかい。(2)四州ししゅう 須弥山しゆみせんを中心とした四方の世界。(3)六欲天よくだん 四天王じこくてん (持国天ちこくてん・広目天こうもくてん・毘沙門天びしゃもんてん・增長天ぞうちやうてん)と、忉利天とうりてん・夜摩天やまてん・兜率天とそつてん・化乐天けらくてん・他化自在天けじざいてんを合わせた十四の有うを言います。

二の「色界」は六欲天の上うへにあり、食欲じきよくと性欲じせきよくを離れた天上界てんじやうかいを言い、(1)大梵天王だいぼんてんのう。(2)四禅天ぜんてん 初禅しよぜん・二禅にぜん・三禅さんぜん・四禅しよぜんの四。(3)無想天むそつてん。(4)五那含なごん (淨居じやうこ) 天てんの七有しちうを言います。

三の「無色界」は最上さいじやうの天上界てんじやうかいで、物質ぶつしつを超え、純粹じゆんじゆに精神しんしんだけが存在そんざいする世界せかいのことで、(1)空無想处くうむそつしよ。(2)識無想处しきむそつしよ。(3)無所有处むしやうしよ。(4)悲想非非想处ひそつひひそつしよの四有しうを言います〔三界さんがいのこと 卷二・妙法蓮華經第三章譬諭品五五・187頁〕。

「有う」は存在そんざいを意味し、「因果不亡いんがふもつ」 因いんは必ず果くわを得、亡なわなないといふも言いわれておおりまます。

人は皆、肉体的にも精神的にも欲望ぼんぼうを持っていて、つい罪障ざいじやうを重ねるのですが、その苦しい境界くわんがいにおいて大勢たいせいの人々ひとらを苦しみから離れさせようと言いわれているのです。この経きやうにはその力ちからがありますから、これを「是の経きやうを修行しゆぎやうする第九の功德くわんてき不思議ふしぎの力ちからである」と言いわれているのであります。

高祖 日蓮大聖人 第七百五十遠忌
始祖 廣宣院殿安立大法尼 第百遠忌
御開山 叡山院日進上人 第七十遠忌
御報恩

五十萬卷 御報恩納経
妙法蓮華経

久遠偈

大乘山 法音寺

書写經典 久遠偈（如来寿量品第十六）
納経期間 令和4年1月1日より10年間
納経供養金 1冊2,000円



写経のまんが動画が
ご覧になれます

※納経帳のお求めは本山事務所受付または所属まで

和泉支院前主管者庫裡・上田ひとみ様を偲んで

去る3月30日、和泉支院前主管者庫裡・上田ひとみ様が旅立たれました。行年71歳。浄蓮院慈性妙美大姉と申されます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

弔辞（檀信徒代表）

御葬儀にあたり、檀信徒を代表し、謹んで哀悼の意を捧げます。お庫裡さまの突然の訃報に檀信徒一同深い悲しみに包まれています。

以前、ご病気で入院され、無事に退院されて数年が経過し、完治されたとうかがって安堵しました。しかしこの度、病気が再発し、ご自分の治療よりもお寺の仕事を優先されたとのこと。ご自分のことも大事にして治療に専念していただきたかったと、今さらながら残念でなりません。

お庫裡さまは、智淳上人を助け、常

に笑顔で信者さんのお話を聞いて、家族のことや病気のことなど、何事も優しい言葉でわかりやすく丁寧にお教えくださいました。

そして、常信上人が主管者となられるまでの間は、お寺を留守にせず、いつもご自分で門戸を開けて私達を迎えてくださいました。

先師のもとへ旅立たれたら、先師の皆さまから信者さんのためにご尽力されたことに労いのお言葉をいただけることでしょう。

これからも、私達を見守ってください。ご教化いただき、ありがとうございます。心から御礼申し上げます。

令和七年四月一日

檀信徒代表 紀納秀敏

ひとみお庫裡さまに

謹んでお別れのご挨拶を申し上げます

す。今年の一月に常信上人から、お庫裡さまが三日の本山への団参の後、ご入院されたこと、また、完治されたと思っていたご病気が二年前に再発していたことなどをお聞きしました。それでも、どうか一日でも長く、少しでもご体調良く過ごしていただきたいと檀信徒一同願っております。そして、もう一度お会いしてお話したいと信じていたと願っておりますが、それが叶わず残念でなりません。

今こうしてお庫裡さまの変わらぬ笑顔のお写真を拝見しますと、言葉にならないほど悲しいです。四十五年前に和泉支院にいられて以来、ずっと智淳上人を支えられ、また、私達に寄り添ってくださいました。慎み深く、謙虚に振る舞われるお姿は、私達女性にとつて憧れで、少しでも見習いたいと常々思っております。

お寺にうかがうと、いつも笑顔で私

達を迎えてくださいました。講日や毎週木曜日の奉仕日には、皆それぞれに家庭のことや仕事のこと、介護のことなど、いろいろなことをご相談させていただきました。どんな話でも「そうですね。そうですね」と優しく耳を傾けてくださり、その人に合ったご教化をくださったことは、とてもありがたく、感謝してもしきれません。そしてそのお姿は、ご病気が再発されてからも変わることはありませんでした。ご自身の体調がすぐれないこともあったでしょうに、私達にはそれを感じさせないほど、いつも笑顔で、親身になって私達のことを心にかけてくださいました。病状が進まれても入院されずにお寺と治療を両立されることを選ばれました。病気をそのまま受け入れ、与えられた命を全うされることを望まれたのだと思います。

自分のことはさておき、相手の方に喜んでいただくというご法の教えを、ご自分の身と信念をもって私達に示してくださいました。

昨年、古希を迎えられ、祝祷会で常信上人よりお祝いのお花をうれしそうに受け取られるお姿に、拝見していた私達も心から良かったと思えました。

お庫裡さまにもうお会いできないと思うと悲しみと寂しさでいっぱいですが、お庫裡さまからいただいたご恩に少しでも報いることができるよう、お教えいただいたことを心に刻んで慈悲の心で周りの方に喜んでもらえるよう精進してまいります。

どうぞ私達をお見守りください。

お庫裡さま、長い間、本当にありがとうございました。

令和七年四月一日

荒木裕子

支院だより掲載写真は、それぞれ関係者より提供されたものです。



ひろば

福祉の



幸せのお手伝い

～はじめの一步～

利用者さんとの出会い

私が障がい分野を志望した理由は、小学生の時に「障がいとは何か」の授業を受け、とある同級生が「自閉症」だと知ったことがきっかけです。

その人は通常学級に通っていましたが、自閉症だと知る前から何か惹かれるものがあり、よく行動を共にしていました。関わりを通じて障がいについて学んでいく中で、自閉症の方々の生活に携わりたい、という思いが募り、就職の志望理由としてお話しさせていただいたことを今でも覚えて

います。

入職当初、大学で障がいについてさまざまに学んできたつもりではありましたが、いざ担当する利用者Aさんの前に立つと、Aさんが何を伝えようとしてくれているのか全く理解できずにAさんを困らせ、自分自身も歯がゆい気持ちになりました。当時はとにかくAさんが何を伝えようとしてくれているのか理解したい、その一心で関わらせていただきました。失敗を繰り返しながらも徐々にAさんの訴えていることがわかるようになり、失敗も少なくなってきた頃、いつものように

散歩に出かけました。少し汗ばむ陽気の中、玄関が開くと同時にAさんが先に一步を踏み出しましたが、その日は初めてAさんから手をつなぎに来てくれました。その時私は、利用者さんと初めて関係作りができた。寄り添いたい、理解したいという努力の積み重ねは間違っていないかったのだ」と手応えを感じました。もちろん、その後の道中はAさんも私もご機嫌です。笑顔で鼻歌を歌いながらの散歩は、いつもより短く感じました。

この成功体験は私にとって忘れられない「はじめの一步」です。ご本人からは感情表現の言葉がなくとも、表情や仕草でうれしそうな感情が伝わってきました。その時のAさんの様子は強く印象に残っています。この小さな積み重ねが、利用者さんの幸福につながっていくといいなと思います。



今でも午後になると、どこからかAさんの歌声が聞こえてきます。

障がい者支援施設 小原寮

グループリーダー 生活支援員 松葉 薫

令和7年度 辞令交付式



写真提供・昭徳会

桜の花が咲き、春の訪れを感じる令和7年4月1日、法音寺本堂にて「令和7年度 昇格職員・新規採用職員辞令交付式」が執り行われました。

今年度は、昇格職員24名、新入職員36名を含む65名に辞令が交付されました。

開式にあたり、鈴木理事長（法音寺山首上人）より、新入職員へ次のとおり、歓迎の辞が述べられました。「わが法人では、単に人手を求めているのではなく、今後、この法人を大いに発展させ、より一層、社会全体の福祉に貢献できるよう全力を尽くしてください。熱意にあふれた人材を求めています。昭徳会の基本理念は『幸福』です。現在、ウクライナやガザでは、戦闘により多くの方が亡くなり、負傷しておられます。また戦災孤児も多数出ていると聞きます。日本において、改めて平和のありがたさ、幸福を感じておられる方も多いと思います。その日本の中でも幸福を享受できていない人が多数おられます。そういう人達に慈愛の手を差し伸べるのが皆さんのこれからの仕事です。おそらく職務の途上では、いろいろな困難に遭遇されることもあるでしょう。しかし、それらを乗り越えてこそ福祉人としての成長、発展があります。積極的に取り組んでくださることを願っております。何事も意欲をもって当たれば、自ずと知恵も湧き、道も開けてくるものです。また、そうした歩みの一つひとつが、人生の貴重な経験となり宝となっていくと思えます。どう



か、そうした心構えをもって力強く前進してくださることを切に願っております。また、何と言いましても心身ともに健康が第一です。身体はもちろん心の健康にも充分気をつけていただきますよう、お願いいたします—

その後、理事長より一人ひとりに辞令が手渡されました。昇格した職員は、喜びを感じることも、責任の重さを改めて実感し、新入職員は、昭徳会の職員となることへの誇りを感じ、気持ち新たにしている様子でした。

続いて新入職員を代表して柳瀬優菜さん（高知県立大学卒 駒方寮配属）より、「理事長さまより温かい励ましのお言葉をいただき、新入職員一同、感慨深く思いますと同時に身が引き締まる思いであります。昭徳会は故鈴木修学初代理事長の『困っている人を助ける』という福祉活動の教えを長年実施され、福祉と真摯に向き合ってきた法人とうかがっております。このようになすばらしい法人に、113期生として、昭徳会の一員となれることに喜びと責任を感じております。

学んだことを実践し、『周囲に喜ばれる存在』となれるように努めてまいります。この決意をいつまでも忘れることなく、諸先輩方のご指導を仰ぎながら、何事にも積極的に取り組み、向上心をもって邁進していくことをここに誓います」と、力強く誓いの言葉が述べられました。

辞令交付式の後、理事長をはじめ式典に参加した職員、総勢約85名による懇親会が開催されました。初めは緊張した面持ちであった新入職員も、積極的に話しかける施設長や先輩職員のおかげで和やかな表情になり、笑い声が絶えないひとときとなりました。しばらく歓談した後、昇格者から一人ずつ、理事長の前で抱負を伝える機会が設けられました。抱負を述べた職員は温かく大きな拍手で激励され、その抱負を聞いていたほかの職員にとっても刺激となり、励みにもなったと思います。

私自身も今年度で法人本部事務局に異動となり、人事部職員という立場で初めて参加させていただきましたが、新入職員の皆さんが凛々しい表情で辞令を受け取る姿や、懇親会での楽しそうな姿を見て、昭徳会の明るい未来を担っていく頼もしい存在だと感じました。私も志を高く持ち、昭徳会で働く職員の皆さんにご指導を賜りながら、知識と経験を積んでいきたいと思っております。

法人本部事務局 事務員 小林 美奈

大阪支院でふくしセミナーを開催しました

〓日本福祉大学大阪サテライト〓

2025年3月30日(日)、法音寺大阪支院で檀信徒の皆さまや昭徳会ケアハウス大阪安立の入居者さんを対象に「Well-being、いつまでも健康に暮らしましょう」と題して、ふくしセミナーを開催しました。

講師を務めたのは、健康科学部の学部長で、リハビリテーション学科 作業療法学専攻の山中武彦(やまなかたけひこ)先生(以下、山中先生)です。山中先生は、リハビリテーション科学・福祉工学を専門に研究されており、高次脳機能障害や中枢神経疾患に対する作業療法の研究・教育に携わっておられます。

ふくしセミナーは、法音寺大阪支院や昭徳会ケアハウス大阪安立の皆さまと「学び」を通して交流の機会をつくりたいという想いから、本学大阪サテライトが主催する企画です。法音寺大阪支院の皆さまのご尽力

により、当日は全体で約60名の方々にご参加いただき、無事に開催することができました。

山中先生のお話では、健康は病気がないだけでなく、心身の機能や活動社会参加のバランスが取れていることが大切とのこと。日本では、平均寿命と健康寿命を比較した時に、男性が約8・7年、女性が約12・1年の



期間を健康ではない状態で過ごしていて、健康寿命を延ばすためには、日常生活の中で工夫が必要であることを教えていただきました。その後も、1日6000～8000歩のウォーキングが死亡リスクの低減や病気の予防に効果的であることの紹介やメタボリックシンドロームや認知症の予防についてもご説明いただきました。

山中先生は講演の中で、「健康的な生活を送るためには、日常生活の中で実践できる工夫が重要である」と強調されました。参加した皆さまからは、「生活習慣を見直して、いつまでも健康に暮らせるようにしたいと思います」、「社会とのつながりが、健康につながっていることを知らな



ったので勉強になりました」といった感想をいただきました。また、山中先生が大阪府の出身ということもあり、「山中先生の軽妙で楽しい話しぶりのお陰でよく理解することができました」というお声もいただきました。

社会活動への参加は健康維持に重要で、活動の多様性が高い人々は生存率が高いことが示されています。今後さまざまな取り組みを企画し、多くの皆さまにご参加いただけるような「楽しい学びと交流の場」を提供していきたいと思えます。



日本福祉大学 大阪サテライト 古澤 徹

法音寺は「**信仰**と**福祉**のお寺」です



困っている人達の助けになることで、
法音寺には“**功德**”が積み重ねられています

(功德とは、「幸せを引きよせる種」です)

その功德が信仰を通して
皆さんに授けられるのです



法音寺による社会貢献

社会福祉法人昭徳会の運営を基に
現在1,500名を超える人達のお世話をさせていただいています



**福祉のさまざまな分野を支え、
利用者さんの幸福を実現します**



児童養護施設

親と暮らせない約170名の子どもの
生活を支えています

保育園

毎日370名余りの園児達の
成長を見守っています

障がい児・障がい者施設

300名を超える人々に
日々希望を与えています

高齢者施設

600名ほどのお年寄りに
寄り添っています





幸せの種まき

よい教えの話を聞きましよう

よいと思つたことは

実行しましょう

必ず喜びの日が来ます

実行して家族や友人にも話すと

家庭や社会が明るくなります

それが仏になる道です

大乗山 法音寺



編集後記

今月号の支院だよりでは、六波羅蜜の教えが各地で説かれた様子がレポートされました。

『法音』読者の皆さんは、困難に出遭つた時、お寺の本に手を伸ばし、何気なく開いた頁に解決のヒントが見つかったり、講日のご法話で、この話はまさに今自分が置かれている状況にぴったりだ〴〵と感じたことがあるかもしれません。諸天は時に、この人には今この教えが必要だ〴〵と考えて、私達の目の前に顕されるような気がします。おそらく、それこそが人知の及ばないご加護なのだと思います。

私達はお寺を通して幾度となく師の説くみ教えに救われてきました。困つた時に支えとなる教えがあるということ、そしてそれにふれる機会の扉が開いていることは、何とありがたいことなのでしょうと改めて思われます。「よい教えの話を聞きましょう。必ず喜びの日が来ます」という御開山上人のお言葉が心に響きます。

人生の局面で法音寺のみ教えに支えられた私達だからこそ、「こんなところに人生の支えになる教えがありますよ」と、一人でも多くの方にお伝えしていきます。

いいところなし?

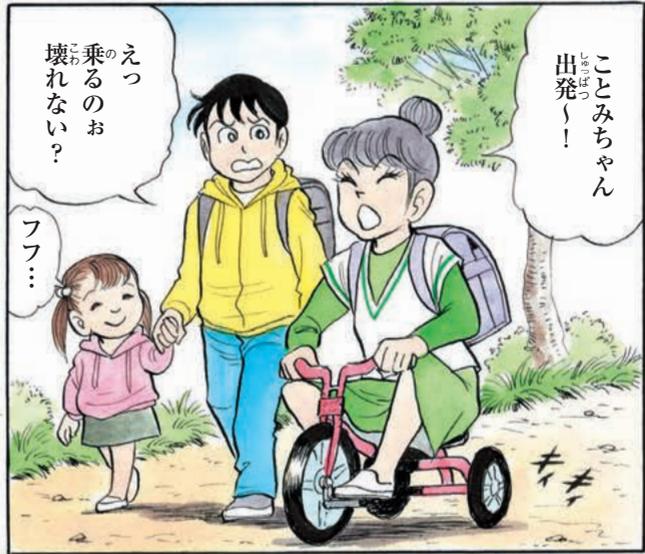
竹中 淳















どうかな

仲の良い
兄妹だったね
ことみちゃんと
また会える
かな



ついできてくれて
ありがとう
ボク一人じゃ
心細かったんだ
いいいいいよ
楽しかった
もん



コンクールの
入賞の絵が
ロビーに貼り
出されてるけど
蓮には黙っといた
方がいいよね



数日後

タケルくん
おはよう
どうしたの？



あつ



あつ絵画コンクールの
入賞した絵だって
見に行こ！



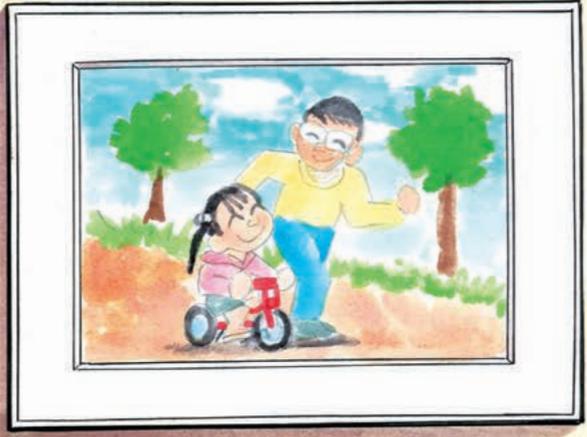
すごーい...

だよね...



ねえ
これって

うん



佳作 5年1組 藤井 健



おしまい

法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





悦可衆心

相手を満足させればすぐ喜びがくる
相手をいたわれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
https://www.houonji.com FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています

SNSでつながる法音寺

法音寺公式
facebookで
毎朝7時
『一日一言』
配信中!!

こちらの
二次元バーコードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!
山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらの
二次元バーコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて
法音寺チャンネル
開設中!!

[https://www.youtube.com/
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらの
二次元バーコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10
TEL.(052)831-5171
<https://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL.(0569)87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>



法音・令和7年5月号・No.667・令和7年5月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・(株)一誠社